

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年8月9日

**【四半期会計期間】** 第3期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

**【会社名】** 株式会社テレビ東京ホールディングス

**【英訳名】** TV TOKYO Holdings Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 島田昌幸

**【本店の所在の場所】** 東京都港区虎ノ門四丁目3番12号

**【電話番号】** 03(5473)3001(大代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理局長 後藤浩士

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区虎ノ門四丁目3番12号

**【電話番号】** 03(5473)3001(大代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理局長 後藤浩士

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第2期 第1四半期 連結累計期間	第3期 第1四半期 連結累計期間	第2期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	26,435	27,666	111,521
経常利益	(百万円)	771	1,192	2,588
四半期(当期)純利益	(百万円)	254	1,174	1,388
四半期包括利益 又は包括利益	(百万円)	606	1,033	2,393
純資産額	(百万円)	61,216	63,180	62,734
総資産額	(百万円)	82,383	84,948	88,566
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	9.47	43.66	51.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	72.5	72.7	68.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月～6月）の日本経済は、依然として厳しい状況にあるものの、復興需要等を背景として穏やかに回復しつつあります。ただし、欧州政府債務危機による為替の変動、海外景気の下振れ等により景気が下押しされるリスクを抱えており、引き続き注視が必要な状況です。

このような状況で、当社グループの連結売上高は276億6千6百万円、前年同期比4.7%増収、営業利益は10億6千万円、前年同期比73.1%増益となりました。また、経常利益は11億9千2百万円、前年同期比54.6%増益、四半期純利益は11億7千4百万円、前年同期比361.0%増益となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりです。

#### （地上波放送事業）

放送収入のうちタイム収入は、土曜昼帯の経済新企画や深夜アニメの新企画番組が始まったものの、単日セールスの伸び悩みや、前年度は世界卓球があったこと等から、119億1千5百万円、前年同期比1.3%の減収となりました。しかし、スポット収入は、東日本大震災の影響を受けた前年度に比較して大きく伸び、65億2千8百万円、前年同期比25.6%の増収となりました。タイム・スポットトータルでは184億4千3百万円、前年同期比6.8%増収となりました。BS等収入は、3億9千3百万円、前年同期比22.8%の増収でした。

番組販売収入は、「やりすぎコージー」「石川遼スペシャルRESPECT」等、ローカル局への売上げが好調だった番組の終了が影響し、10億7千4百万円、前年同期比7.4%減収となりました。

ソフトライツ収入のうち、一般番組では、「ウレロ 未確認少女」「ゴッドタン」「マジすか学園」のDVD販売等が好調でした。また、IT関連でも「WEB広告」収入等が引き続き好調に推移しました。アニメ事業では、「NARUTO」を中心とした海外販売は堅調に推移しましたが、国内市場の冷え込み等が影響し、全体としてソフトライツ収入は、24億1千1百万円、前年同期比11.7%減収となりました。

イベント収入は、「D1グランプリ」「サイバーエージェントレディスゴルフ」等が堅調に推移しましたが、全体では大規模イベントの数が少なかったことから、1億2千8百万円、前年同期比9.0%減収となりました。

一方で、費用面では番組制作費の増加や代理店手数料の増加等により、220億3千5百万円、前年同期

比0.4%増加となりました。

以上の結果、地上波放送事業の売上高は224億5千1百万円、前年同期比3.8%増収、営業利益は4億1千6百万円となりました。

#### (放送周辺事業)

通信販売関連は、前年度に比べテレビ通販番組枠が減少したため、売上高は前年比ではマイナスとなりました。ただし、(株)テレビ東京ダイレクトが従来から放送している「7スタLIVE」の通販売上が好調だったほか、4月に内容をリニューアルした「ものスタ」も堅調に推移するなど個別番組は順調に伸びました。この結果、(株)テレビ東京ダイレクトの売上高は16億1千9百万円、前年同期比22.4%減収となりました。

また、CS放送関連では、昨年の地上波の完全デジタル化に伴う三波共用デジタルテレビの普及に歩調をあわせた加入者の急増に一服感が出る一方、「メタルファイト ベイブレード」や「ジュエルペット」等のライセンス売上が引き続き好調で、(株)エー・ティー・エックスの売上高は13億1千7百万円、前年同期比15.7%増収となりました。

音楽出版関連では、印税収入が低調で、(株)テレビ東京ミュージックの売上高は7億9千1百万円、前年同期比19.6%減収となりました。前年度には、子供向けバラエティ番組「ピラメキーノ」の配信収入が集中したため、前年比が落ち込みました。

以上の結果、上述3社を含む放送周辺事業全体の売上高は80億3千6百万円、前年同期比2.6%減収、営業利益は6億1千5百万円、前年同期比21.5%減益となりました。

#### (BS放送事業)

放送収入は、スポット収入が好調でした。番組販売収入は、スピンオフ企画「だいすけ君が行く!!ポチたま新ペットの旅」等のローカル局への売り上げが堅調でした。

一方、費用面では、番組の充実を図るために、4月から「NIKKEI×BS LIVE 7PM」等のレギュラー番組をスタートさせたことによる番組制作費の増加がありました。

以上の結果、BS放送事業の売上高は22億8千3百万円、前年同期比29.2%増収、営業利益は3億1百万円、前年同期比18.4%増益となりました。

#### (インターネット・モバイル事業)

インターネット・モバイル事業では、スマートフォンのアプリ販売等、スマートフォン向けサービスや、Web制作・運用等の受託事業の売り上げが堅調に推移しました。しかし、既存のフィーチャーフォン向け有料会員数の減少等が影響し、インターネット・モバイル事業の売上高は4億3千万円、前年同期比16.9%減収、営業利益は1千万円、前年同期比23.3%減益となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

流動資産は526億5千万円、前連結会計年度に比して27億8千7百万円の減となっております。これは主に、現金及び預金が37億7千1百万円の減となったことによるものです。

固定資産は322億9千8百万円、前連結会計年度に比して8億3千万円の減となっております。これは主に、有形固定資産が2億6千8百万円の減となったこと、及び株式の売却、株価の下落等により投資有価証券が1億9千7百万円の減となったことによるものです。

### (負債)

流動負債は176億1千4百万円、前連結会計年度に比して35億4千7百万円の減となっております。これは主に、短期借入金15億円の減となったこと、未払費用が9億6千7百万円の減となったことによるものです。

固定負債は41億5千4百万円、前連結会計年度に比して5億1千5百万円の減となっております。これは主に、長期未払金が3億9千4百万円の減となったことによるものです。

### (純資産)

純資産は631億8千万円、前連結会計年度に比して4億4千5百万円の増となっております。これは主に、利益剰余金が9億4千7百万円の増となったこと、その他有価証券評価差額金が2億5千2百万円の減となったことによるものです。

## (3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は12百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,779,500	28,779,500	東京証券取引所 (市場第1部)	単元株式数は100株であり ます。
計	28,779,500	28,779,500		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年6月30日		28,779,500		10,000		7,700

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 498,600		
	(相互保有株式) 普通株式 1,373,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,827,100	268,271	
単元未満株式	普通株式 80,100		
発行済株式総数	28,779,500		
総株主の議決権		268,271	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) ㈱テレビ東京 ホールディングス	東京都港区虎ノ門4-3-12	498,600		498,600	1.73
(相互保有株式) ㈱テレビ東京	東京都港区虎ノ門4-3-12	1,373,700		1,373,700	4.77
計		1,872,300		1,872,300	6.51

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,695	16,924
受取手形及び売掛金	1 20,841	1 20,353
制作勘定	10,385	10,858
商品	91	118
貯蔵品	19	19
未収還付法人税等	950	2,100
その他	2,529	2,351
貸倒引当金	75	76
流動資産合計	55,437	52,650
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,421	7,221
その他(純額)	10,454	10,386
有形固定資産合計	17,876	17,607
無形固定資産		
のれん	621	457
その他	1,006	956
無形固定資産合計	1,628	1,413
投資その他の資産		
投資有価証券	8,424	8,227
その他	5,271	5,115
貸倒引当金	71	65
投資その他の資産合計	13,624	13,277
固定資産合計	33,128	32,298
資産合計	88,566	84,948
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,949	2,581
短期借入金	2,600	1,100
未払費用	9,185	8,217
賞与引当金	1,262	215
未払法人税等	485	136
その他	4,678	5,362
流動負債合計	21,161	17,614
固定負債		
退職給付引当金	3,264	3,262
役員退職慰労引当金	35	3
資産除去債務	252	196
その他	1,116	690
固定負債合計	4,670	4,154
負債合計	25,831	21,768

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	20,685	20,685
利益剰余金	33,214	34,162
自己株式	3,126	3,126
株主資本合計	60,774	61,722
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	322	70
為替換算調整勘定	69	60
その他の包括利益累計額合計	253	10
少数株主持分	1,707	1,448
純資産合計	62,734	63,180
負債純資産合計	88,566	84,948

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	26,435	27,666
売上原価	19,000	19,185
売上総利益	7,434	8,481
販売費及び一般管理費		
人件費	1,729	1,782
賞与引当金繰入額	69	71
退職給付費用	81	90
役員退職慰労引当金繰入額	2	3
代理店手数料	3,286	3,795
貸倒引当金繰入額	-	4
賃借料	327	327
減価償却費	119	122
その他	1,204	1,223
販売費及び一般管理費合計	6,821	7,421
営業利益	612	1,060
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	85	68
為替差益	4	6
持分法による投資利益	8	1
受取賃貸料	9	14
保険解約返戻金	41	36
その他	23	5
営業外収益合計	182	142
営業外費用		
支払利息	12	7
金利スワップ解約損	10	-
その他	0	3
営業外費用合計	23	10
経常利益	771	1,192

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
特別利益		
子会社株式売却益	-	326
補助金収入	-	127
その他	-	12
特別利益合計	-	465
特別損失		
固定資産除却損	5	1
投資有価証券評価損	57	-
ゴルフ会員権評価損	11	-
その他	-	0
特別損失合計	75	1
税金等調整前四半期純利益	695	1,657
法人税、住民税及び事業税	149	93
法人税等調整額	191	285
法人税等合計	340	379
少数株主損益調整前四半期純利益	355	1,277
少数株主利益	100	102
四半期純利益	254	1,174

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	355	1,277
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	247	252
為替換算調整勘定	3	9
その他の包括利益合計	251	243
四半期包括利益	606	1,033
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	506	931
少数株主に係る四半期包括利益	100	102

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 当第1四半期連結会計期間において、エフエムインターウェブ(株)の株式の一部を売却したことにより、連結の範囲から除外しております。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2百万円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	176百万円	239百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費	584百万円	587百万円
のれんの償却額	86百万円	97百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	707	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	資本剰余金

(注) (株)テレビ東京ホールディングスの平成23年6月24日開催の株主総会において、「その他資本剰余金」を原資とする期末配当の支払(配当総額707百万円)が決議されたことに伴い、(株)テレビ東京ホールディングスの個別財務諸表上は「その他資本剰余金」を減少させる会計処理を行っております。

しかしながら、(株)テレビ東京ホールディングスは(株)テレビ東京、テレビ東京ブロードバンド(株)及び(株)BSジャパンによる共同株式移転により設立されており、完全子会社のうち(株)テレビ東京を取得企業とし、(株)テレビ東京の連結財務諸表を引き継いでおります。その際に、(株)テレビ東京ホールディングスの個別財務諸表上の「その他資本剰余金」のうち、企業結合日前までの留保利益を連結財務諸表上は「利益剰余金」として処理を行っているため、上記期末配当の支払に関して「利益剰余金」を減少させる会計処理を行っております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月21日 定時株主総会	普通株式	282	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	地上波放送 事業	放送周辺 事業	B S放送 事業	インター ネット・ モバイル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	19,373	4,944	1,675	442	26,435		26,435
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,250	3,309	92	76	5,728	5,728	
計	21,624	8,254	1,767	518	32,163	5,728	26,435
セグメント利益又は損 失( )	312	783	254	13	739	126	612

(注)1. セグメント利益の調整額 126百万円には、セグメント間取引消去40百万円、のれん償却額 86百万円、無形固定資産・制作勘定の調整額 12百万円及び全社費用 67百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	地上波放送 事業	放送周辺 事業	B S 放送 事業	インター ネット・ モバイル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,532	4,570	2,222	341	27,666		27,666
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,919	3,466	60	89	5,535	5,535	
計	22,451	8,036	2,283	430	33,202	5,535	27,666
セグメント利益	416	615	301	10	1,343	282	1,060

(注)1. セグメント利益の調整額 282百万円には、セグメント間取引消去45百万円、のれん償却額 97百万円、無形固定資産・制作勘定の調整額6百万円及び全社費用 238百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

### 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

### 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「地上波放送事業」のセグメント利益が1百万円増加し、「放送周辺事業」のセグメント利益が0百万円増加しております。

## (金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

## (有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

## (デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

## (企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9円47銭	43円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	254	1,174
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	254	1,174
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,907	26,907

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 6日

株式会社 テレビ東京ホールディングス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 川 上 豊 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 上 坂 健 司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社テレビ東京ホールディングスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社テレビ東京ホールディングス及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。